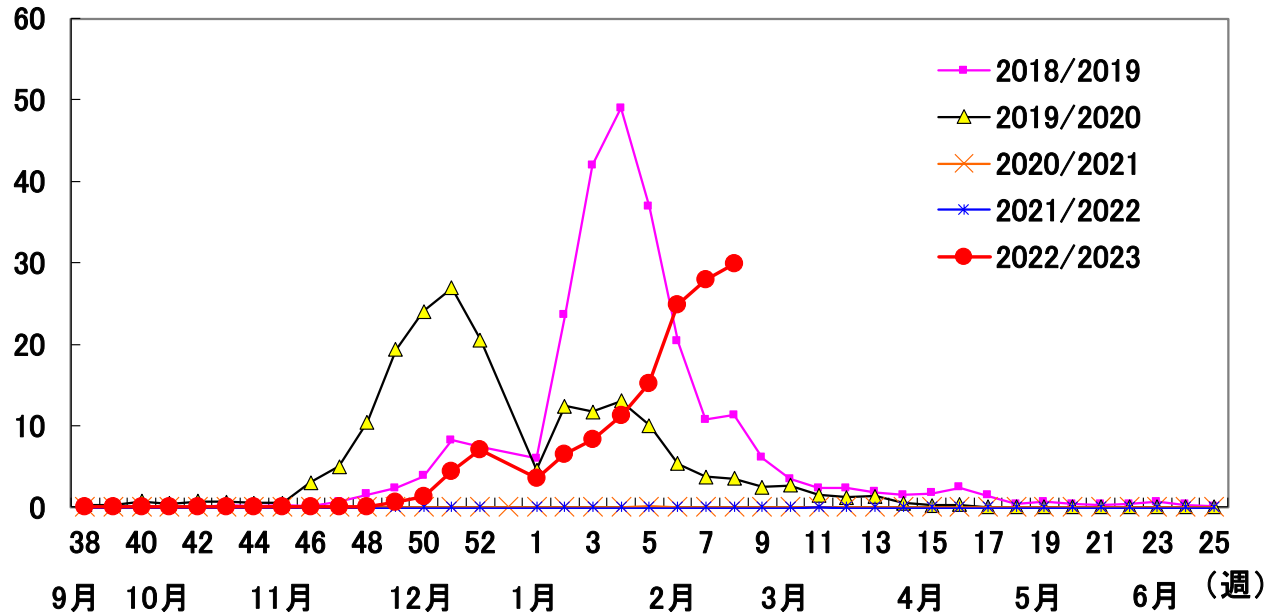


# インフルエンザの発生状況(富山県)

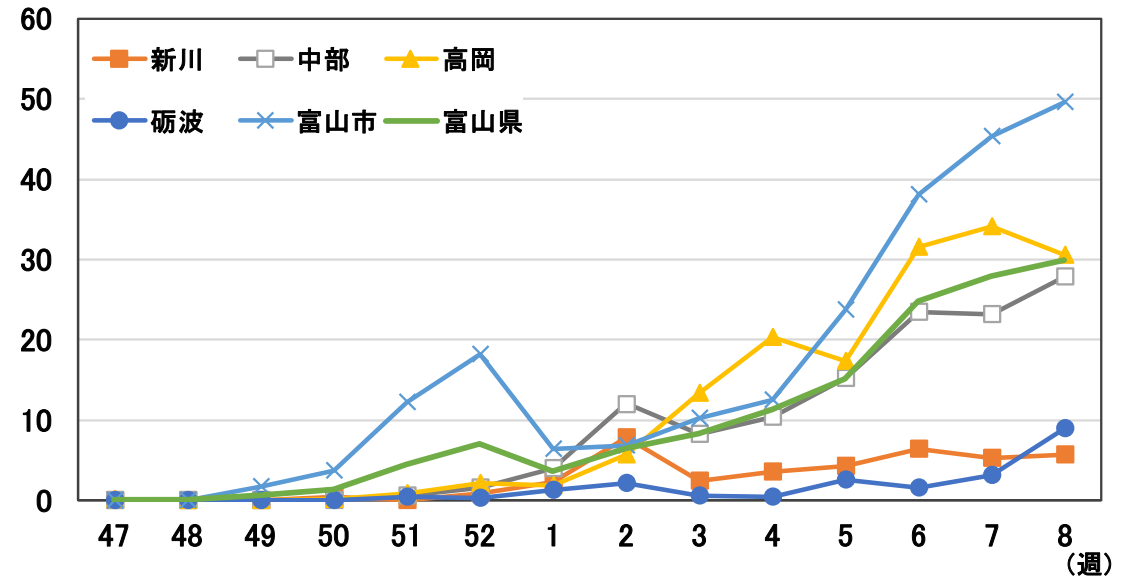
【第8週(2023/2/20~26) 感染症発生動向調査速報値 (2023/3/1時点)】

(人/定点)

図1. 5シーズンの患者報告数の推移(富山県)



(人/定点) 図2. 厚生センター・保健所別患者報告数(2022/2023)



- 今週の報告数は**29.85**人/定点となり、増加傾向が継続している。県内の報告数は今後も増加する可能性がある。
- 厚生センター・保健所別に見ると(図2)、富山市(水色)、中部(灰色)、砺波(青)管内で先週より増加した。富山市(49.63人/定点)、高岡(30.54人/定点)では引き続き警報レベルである30人/定点を超えた状況が続いている。

図3. 年代別割合(富山県、第8週)

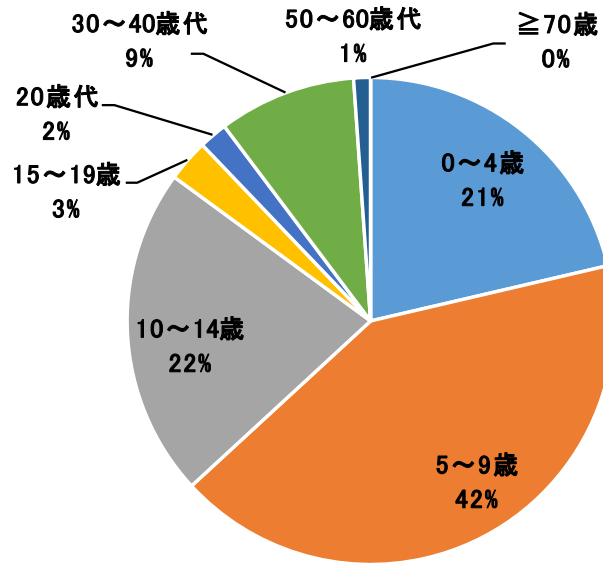
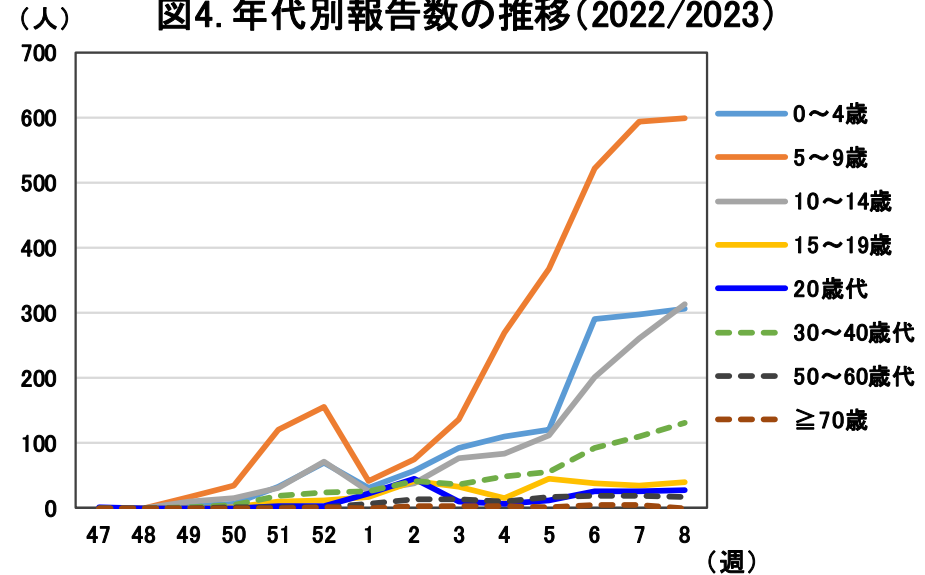


図4. 年代別報告数の推移(2022/2023)



- 富山県の第8週の年代別割合 (図3)では、15歳未満の小児が85%を占めた。一方、50歳以上の症例は非常に少ない状況。
- 年代別報告数の推移 (図4) では、10~14歳 (灰色)、30~40歳代 (緑点線) の報告数が引き続き増加傾向にある。一方、5~9歳 (橙色)、0~4歳 (水色) は先週から横ばいの状況であった。
- インフルエンザ様疾患による学級閉鎖は第8週に、小学校29件、幼稚園1件、中学校1件の計31件報告された。引き続き小学校での感染を中心に拡大していると考えられる。

富山県HP : <https://www.pref.toyama.jp/120507/kurashi/kenkou/iryuu/kj00007295.html>

富山県感染症情報センターHP : <https://www.pref.toyama.jp/branches/1279/kansen/inful/influ2223/influ2223.htm#gakkyuheisa>

図5. 都道府県別インフルエンザ報告状況(第7週)

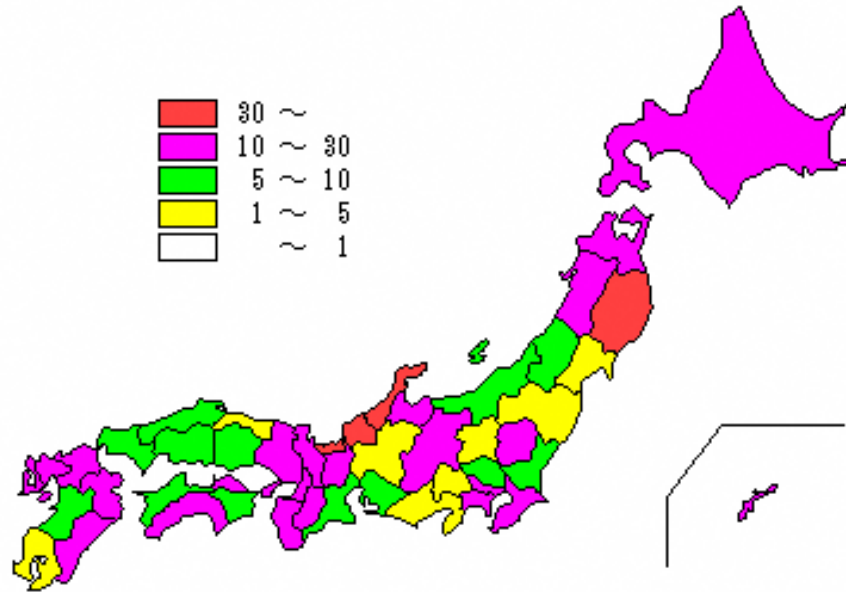
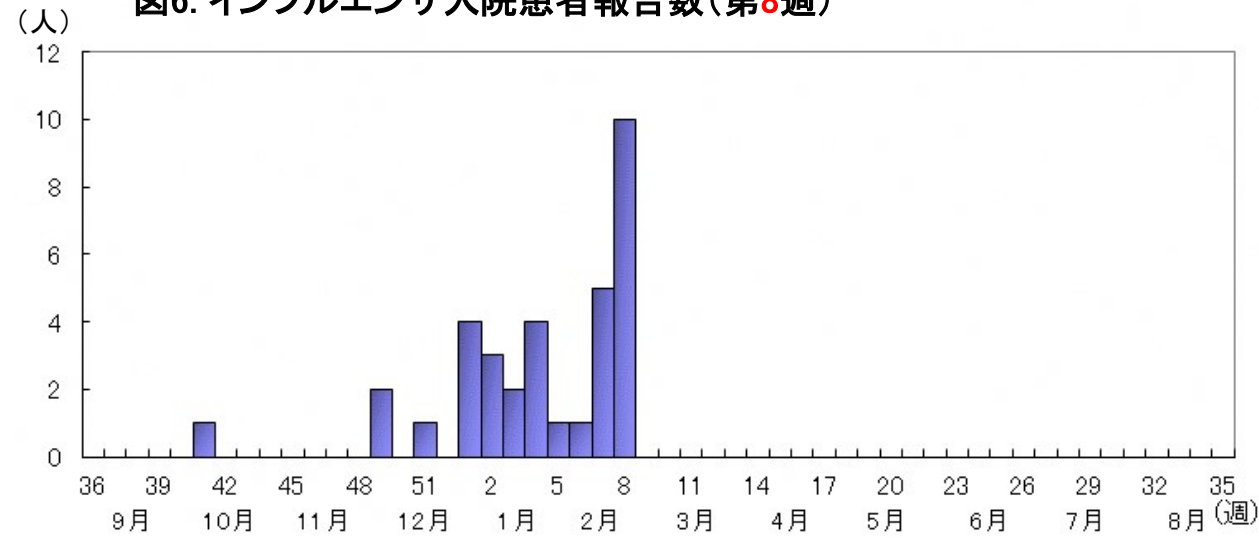


図6. インフルエンザ入院患者報告数(第8週)

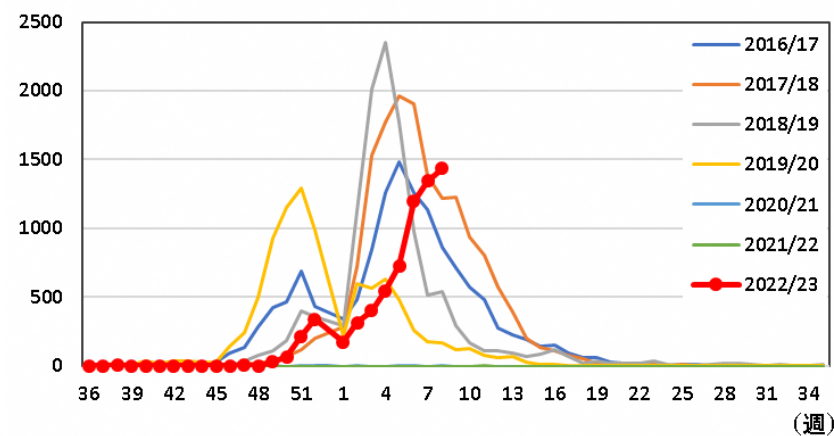


- 全国では第7週に12.56人/定点となり、第6週（12.91）からやや減少した。なお、都道府県別(図5)では26都道府県で注意報レベルの10人/定点を超えている。また、岩手県、石川県、福井県では、警報レベルの30人/定点を超えている。
- 県内5か所の基幹定点医療機関を対象に実施するインフルエンザ入院サーベイランス（図6）では、第8週に10例の報告（小児6例、70歳以上4例）があった。

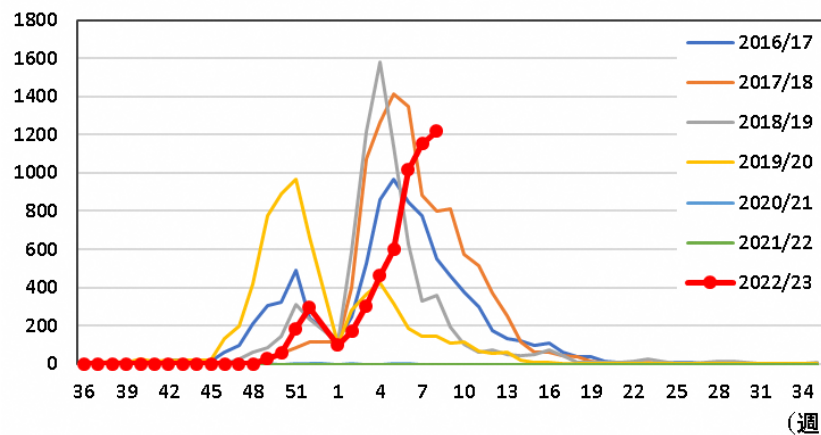
# 過去インフルエンザ流行シーズンとの比較検討（富山県）

2023年第8週(2023/2/20~26) 時点

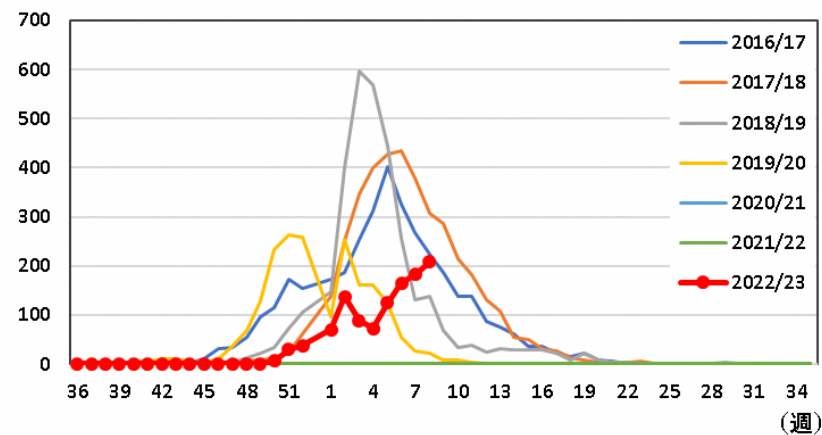
図7. インフルエンザ定点報告数の推移 (人) A: 全年代



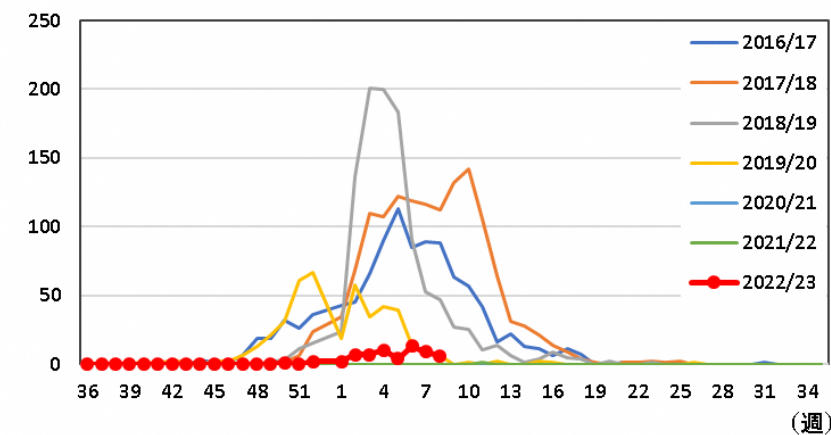
(人) B: <15歳



(人) C: 15~59歳

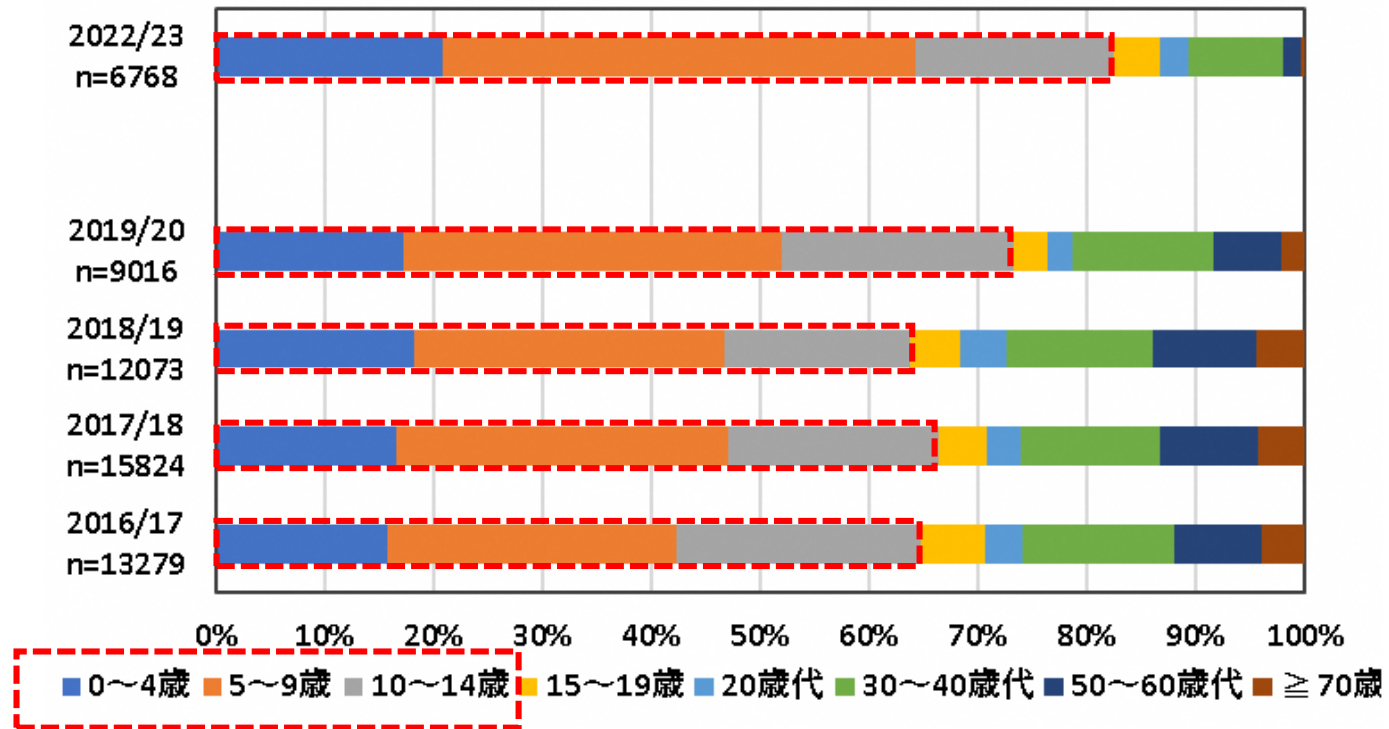


(人) D: ≥60歳



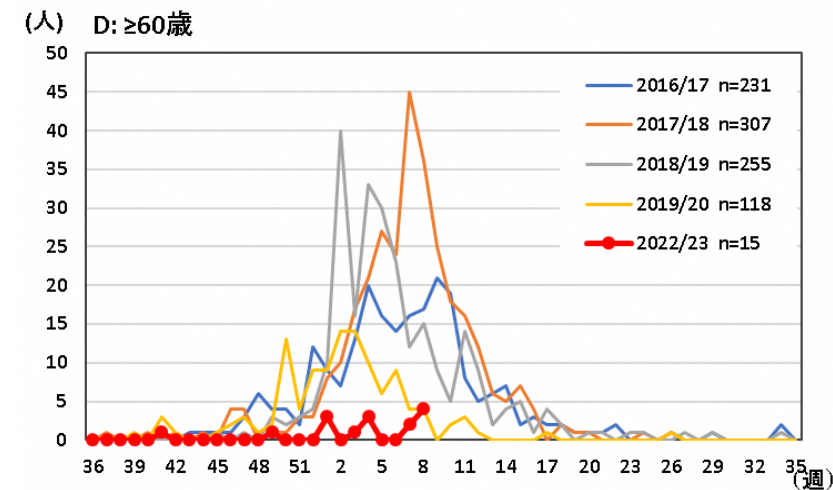
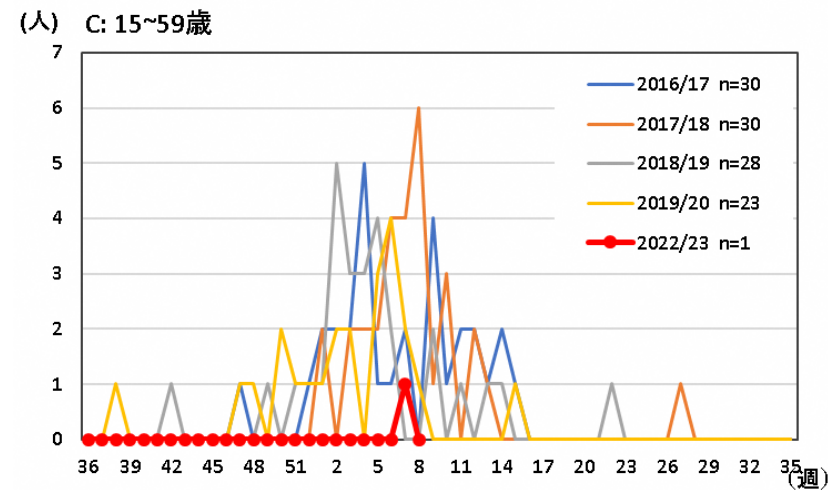
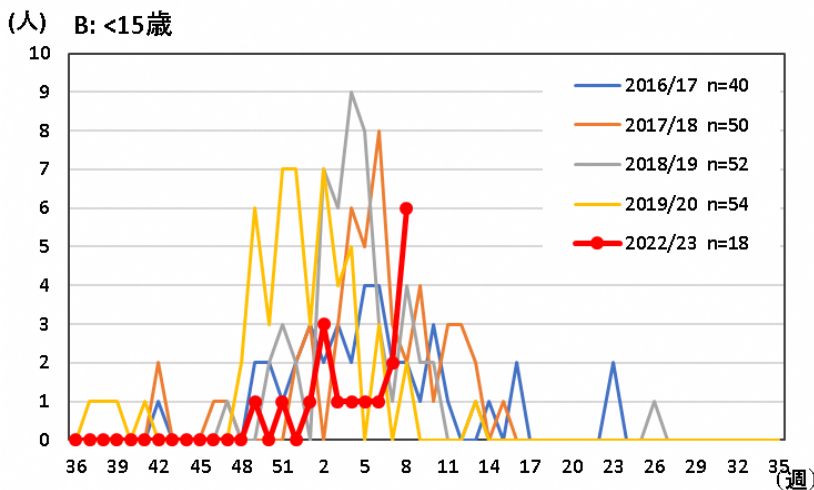
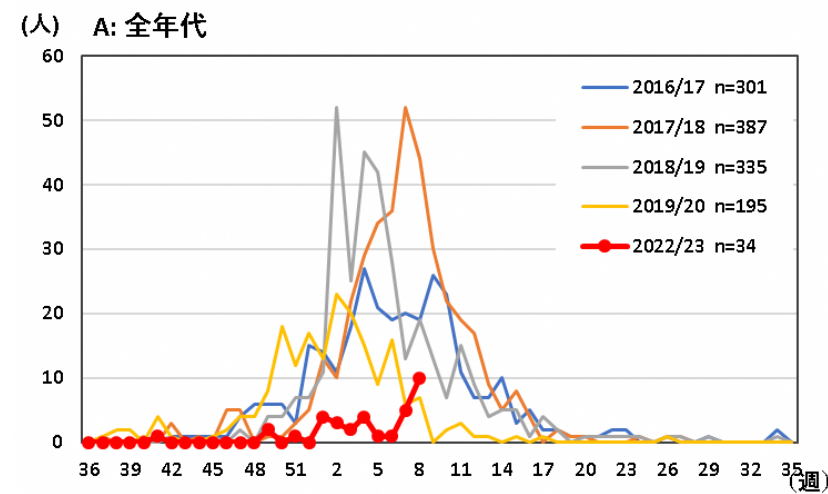
- 2022/23シーズンと過去のシーズンのピーク時の報告数を比較した。
- 全年代 (図7-A) では、2022/23シーズンの第8週は2016/17シーズンのピークと同程度の報告数であった。
- 年代別に見ると、15歳未満の小児 (図7-B) では、COVID-19流行以前の2016/17~2018/19シーズンと同程度の流行状況であった。
- 一方、15~59歳の若年成人 (図7-C) においては、COVID-19流行以前の1/3~1/2と少なく、60歳以上 (図7-D) においては報告数が激減している。

図8. インフルエンザ年代分布（富山県） ※2023年第8週時点



- COVID-19流行以前の2016/17~2018/19シーズンは15歳未満の小児が約6割を占めていた。また、50~60歳代は約1割、70歳以上は5%程度であった。
- 一方、2022/23シーズンは小児が8割以上を占め、50歳以上の年代が2%と極端に少ない。

図9.インフルエンザ入院サーベイランス報告数の推移



- 全年代（図A）では、COVID-19流行以前は各シーズン300例以上報告されていたが、2022/23シーズンは第8週時点で34例と約1割の報告数。
- 年代別報告数の推移を図B~Dに示す。15歳未満の小児では、COVID-19流行前の約4割である一方、15~59歳、60歳以上の成人では極端に少ない。

# 2023年第8週時点での所見

- インフルエンザ定点報告数、入院サーベイランス報告数共に、小児での報告数は一定数ある一方、成人での報告数はCOVID-19流行以前と比較し大きく減少した。
- 受診控えのバイアスが少ない入院サーベイランス（重症例）でも成人の報告数が少ないことから、小児でインフルエンザがまん延している一方、成人でのヒト-ヒト感染伝播は限定的であることが示唆される。